

世界の仲間たちと原子力の未来を語った夏 〜向坊隆記念事業WNU参加者座談会

Fresh Power Persons — 座談会編 —

原産協会では、原子力分野において国際的視野を持って国内外で活躍・貢献できる若手リーダーの育成を目的とし、二〇〇八年度より国内外派遣支援、奨学金等の人材育成支援事業を展開する「向坊隆記念国際人育成事業」を行っている。その一環として今年より、世界原子力大学(WNU)が毎年実施する夏季研修へ四人の若手原子力関係者を派遣する助成事業がスタートした。その若手四人のうち、都合で出席できなかった貝森公大氏(日立GEニュークリア・エナジー原子力予防保全技術部技師)を除き、WNU夏季研修を終えた三人にお集まりいただき、同プログラムでの貴重な六週間の経験について語ってもらった。(4面・5面、文中敬称略)

高い目標を持ち WNUに参加へ

司会 まず、現在行っている仕事内容と、今回のWNU夏季研修への参加動機は。
鶴田 私は、当社が参画しているウラン鉱山な



(写真左手前から時計廻りに鶴田、中里、松澤の各氏)

- ◇鶴田 健介氏 東京電力(株)原子燃料サイクル部
ウラン事業戦略グループ
 - ◇中里 道氏 三菱重工(株)原子力事業本部
原子力技術センター炉心技術部
 - ◇松澤 幹浩氏 中部電力(株)浜岡原子力発電所
技術部技術課
- 司会：原子力産業新聞記者 中村 真紀子

どの自主開発プロジェクトの投資管理、および新規投資案件の検討や交渉を担当している。
中里 私の担当業務は、主に高速炉の炉心設計で、さらに軽水炉を担当することもある。まず高速炉については、現在、原子力業界のリーダーシップを強化するプログラムにより、自分の能力を高められる機会を高められること、第三に、原子力業界のリーダーと接する機会に恵まれていることである。また、米国の国際原子力パートナーシップ(GNEP)プロジェクトにおいて、廃棄物を削減するための取り組みを行っている。

理由の一つは、将来日本が世界の原子力業界を引っ張っていく原動力になりたいという思いを漠然とは抱いていたものの、私はこれまで国際的な経験が全く無かったのは、今、世界で起きている大きな変化に寄与していくことができたかと考えたからである。今日、日本の三大プラントメーカーがそれぞれ、東芝はウエスティングハウス社、日立はGE社、私は三菱重工はアレバ社と組んでおり、この三メーカーが、これから世界の中心となって原子力を進めていく機運が到来している。また一方で高速炉でも、これまで日本が開発を継続してきたことにより、日本の高速炉を世界の標準炉にできるという大きなチャンスが与えられていると思う。これらに対し、今後日本が世界のリーダーとして率いていくためには、二〇二五年の実証炉および二〇五〇年の実用炉に向けて取り組んでいく必要がある。また、米国の国際原子力パートナーシップ(GNEP)プロジェクトにおいて、廃棄物を削減するための取り組みを行っている。

中里 最後の討論の総仕上げとして行われたフォーラム・イシューが印象に残った。ここではグループ内で興味のあるテーマを選択してディスカッションを行って自分たちで解を見つけ出す。我々のグループは廃棄物処理を選び、みなとも目的意識が高く、活発な議論がなされた。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。日本待望論はすくなく、欧米人講師と日本人講師のレクチャーを立てて違いがわかるようにすれば、議論はもっと進むはずだ。
鶴田 特に印象に残ったテーマの一つはパブリック・アクセプタンス

私に専門がもともと高速炉であったため、廃棄物処理に関する「本来なら毒性が高く数万年ぐらいたかことが非常によかつた。」
私は専門がもともと高速炉であったため、廃棄物処理に関する「本来なら毒性が高く数万年ぐらいたかことが非常によかつた。」

さらに、原子力産業は燃料供給、輸送、賠償法が多国間の協力が不可欠であるが、廃棄物に

各国の参加者が課題として共通認識を有しているのは、国民の一番の情報源がマスメディアであり、印象に残る原子力情報が多く、事故情報などネガティブな出来事が多いことだ。
改善に向けては、第一に、日本をはじめとする原子力先進国が安全最優先で原子力の平和利用に一層努めるとともに、原子力を今後採用するであろう国々に、安全文化や法制度といったインフラ構築面や、ノウハウやスキルの提供面において協力していくことで、原子力トラブル発生リスクを軽減することが望ましい。

哲学持つ参加者と質の高い議論

司会 WNUで特に印象に残った研修内容は、

また、今回学んだことの一つでもあるフランスの廃棄物処理の考え方に

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。日本待望論はすくなく、欧米人講師と日本人講師のレクチャーを立てて違いがわかるようにすれば、議論はもっと進むはずだ。

求められるリーダー像を認識し 日本が原子力の中心となる日へ

を主張してきたのか。

中里 最後の討論の総仕上げとして行われた

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。



松澤氏 (中部電力)

さらに、原子力産業は燃料供給、輸送、賠償法が多国間の協力が不可欠であるが、廃棄物に

また、今回学んだことの一つでもあるフランスの廃棄物処理の考え方に

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

またこれはWNU側への希望だが、日本人の講師をぜひふやしてほしい。

Fresh Power Persons
— 座談会編 —

まだ原子力を導入してない国の方々は、原子力は誇れる技術であり、導入することは先進国の仲間

ポジティブな
原子力観に学ぶ

司会 WNUにはさまざまな国からの参加者がいるが、新しいと感じた視点はあったか。

鶴田 日本にいると、原子力というテーマは、例えばプライベートで雑談している時などに取り上げにくいトピックだと感じていた。しかし参加者に限らず、欧米を始めとする多くの国・地域の方はプライベートでも積極的に原子力について語ってくる。今まで原子力というのは比較的クローズドなトピックと

入りといった観点もあり、そう捉えればプライベートで語るのも当然なのかとも思った。松澤 欧米からの参加者は、原子力をものすごくポジティブに、国際マーケットとして考えている。日本だと「原子力は公益事業だから、安全に運転して、国民の信頼を勝ち得ることが一番」という考えが先行してあり、もちろん彼らもそれを最優先事項としていることに違いはないが、それにプラスアルファで、「原子力は国際マーケットだから、他にマーケットがあるならそこに参入する」という常に攻めの姿勢で考えている。日本だと利益性を全面に押し出すことは良くないという雰囲気があるが、世界規模で原子力事業の価値を最大化させるためにはそういった市場原理というものがあっても間違いではないのでは。そうしたらモチベーションを与えて、結果的に原子力事業により多くの人をひきつけることができる可能性もある。大きな成果を残すためには、できるだけたくさんの人を巻き込んで、き込む必要がある。その手段の一つが経済性であっていいと私は今回思った。もちろん、利益の優先が原子力安全に勝るといふことは決してない。

研修仲間から得た新しい視点
今後ネットワーク大切に

ブリック・アクセプタンスに関する意識が非常に高かった。また、これまであまり接することがなかった国だが、南アフリカからの参加者のリーダーシップには本当に驚かされた。初、誰もリーダーシップをとることもなく、適度に議論を行っていたときもあったが、彼がネイティブ・スピーカーとフットワークは、思ったよりも多かった。研修参加前は、きつ

デイスカッション
今後活かす

司会 WNUの研修をまだ日本は世界に対して

自分の意見持ち
ぜひ参加を

司会 これからWNU

松澤 英語力が足りない

全体講義、グループ討



中里氏 (三菱重工)

中里 例え、スウェーデンからの参加者は、パ



鶴田氏 (東京電力)

に触れることができた

してと言いたい。私自身

WNU夏季研修



世界中から集まった参加者とのWNU夏期研修

平均年齢三十一歳の約百